

[長文読解演習全文訳]

【1】

アメリカ人の平等という理想は結婚ばかりでなくすべての男女関係の形に影響を及ぼした。アメリカ人は家庭の状況の範囲内で個人の自由や平等を成し遂げるとすぐに重大さに置かれることによって多くの利益を得る。それぞれの一員の需要と欲望はたくさんの注目と尊大さを与えさせる。しかしながら、代償はこれらの利益のために支払われる。アメリカ人の家族はたいていの文化を持つ家族よりより安定し長続きするのが少ない。アメリカ人家族の離婚の割合はおそらくこの不安定さが最も多い有力な表示である。

家族に対してのアメリカ人の態度はたくさんの矛盾が含まれている。例えば、アメリカ人は家族の中で離婚を含めて、そのような自由と平等のような価値観を守るために、多量の不安定さを容認する。他方、アメリカ人はすべての生き方のうちで家庭が最良のものであるという考えに強い愛着をもっている。近ごろの調査でアメリカ人の78%が家族は生活の一部分で最も意味があると感じていて、そしてアメリカ人の92%が家族において非常に重大な個人の価値があると示している。実際、離婚をした大部分の人達が新しい相手を見つけたり、再婚したりしている。

一部の社会学者はこの明白な矛盾を興味深いやり方で説明している。アメリカ人は、すちわち、家族を競争社会の外界からの必然的な非難場所として見なす。対照的に、家族は、根本的には非競争的で協力的な制度である。家族の一員は、商業、政治、教育界の外界からの仲間に対して競争しているから、お互いに対して競争することを期待しない。むしろ、アメリカ人の家族の理想は、それぞれの個々の一員の自己表現を達成するのを手伝うグループの協力であり、そして個々の一員の感情的な力を再生するための影響力を共有した。

家族はこの点で教会に似ていると見ることができる。家庭も教会も人々の精神が非常に競争的な外界からの避難場所と努力を続ける活力を見いだす場所であると、アメリカ人は考えている。けれども、多く

の場合、教会と家族は精神的再生をつらい仕事でうまくいっていない。理想はそのようにアメリカの教会や家族のようなままでいることである。（西南学院大学 59年）

【2】

《結婚と幸福感の今と昔》 ある大学生が先週キャンパスでの雑談中に「幸せな結婚というのはいくつ私達の国にあるとあなたは思いますか」と私にたずねた。もちろん、その質問は答えるのにおおざっぱな割合の基づいてさえ不可能な質問であります。しかし、その質問自体が十分な答えがないこと以上に私に興味を持たせた。

たいていの人々は、個人的な意味における幸福という考えは、比較的新しい考えであることを知らない。－フランス革命ぐらいの古さしかない。そのような個人的な幸福が人間の生活の中で支配的な要素であるべきであるという考えは、古代の人や中世の人の心には浮かばなかった。

「進歩」というあいまいな概念と並んで、幸せはこの2世紀間の産物であります。人類は自然の力を征服したと感じはじめた。個人の人格という考え方は、家庭、一族、都市、国家より重要になった。

過去の人々は、究極的な目標としての幸せを目指すことにはなっていなかった。彼らは副産物として幸せを望んだかもしれない、しかし彼らはこの基準で自分達の人生の価値を判定することはしなかった。当時の結婚が保たれたのは夫婦がより幸せだったからではなく、結婚の中に幸せを求めていなかったからである。

私達は、ほんの祖父母の時代でさえも、このことを見ることができる。離婚は頻繁ではなかったのは、単に法律がより厳しく道徳がより厳しかったからではなく、もし二人が折り合いをつけて暮らし、それによって生きるのに十分なものを持ち、きちんとした立派な家族を育て、そして結婚生活を成し遂げたという気持ちを持って死ねば、夫婦は幸せだったからである。

私達は今日、一般にちょうど私達が人生により多くのものを求めるの

と同様に、結婚にずっと多くのものを求めている。平均的な夫婦は幸せがなければ満足しない。この幸せがどのように定義されようとも、そして、その定義は、ある過去の時代における結婚には不適切であったロマンティックな愛という考えを含んでいます。

私は両方の態度の中に良い点を見ることができる。過去の人よりは現実的だった、そして私達は望みが大きい。私達の祖父母たちは余り多くのものを期待しなかった。そして、彼らは単なる「順応」で満足していた。私達は多すぎることを期待する、そして要求していたものより少ないものでは手を打ちたがらない。

私達は、個人について昔の人が持っていたのとはずっと違った考えを持っている。このことは現代の結婚の落ち着きがなく不安定性を説明しています。私達は結婚を経済的、社会的な契約以上のものであって欲しいと思っています。（結婚は経済的、社会的契約以上のものでなければならぬと私は思います）しかし私達はまだ、「幸福」はだれか他の人と築き上げるべきものであると認識出来るまでに成熟していない。私達は、私達の非常に大きな感情的な要求に答えられるほどまだ大人になっていない。（武蔵大 63年）

【3】

たいていの文化において、紹介されない限りは、初対面の人同士はお互いに話をしない。しかしアメリカ人は黙っていると居心地が悪い。だから2人のアメリカ人の初対面の人と一緒にいるとき、沈黙を破らなければならないと感じる。エレベーター、待合室、そのほかの公共の場所にいる初対面の人々はしばしばお互いに話をします。そのような会話はユーモアのある会話です。初対面の人同士が会話を始める良い方法は、天候についての簡単な感想で始めることである。

「雨がもっと降るようですね。」と一人の人がいう。

「そうですね。本当に私はもう雨にはあきあきしてますよ。」と他の人が答える。

「雨がこのように降りつづければ、車を下取りに出してボートを買おうと思います。あんたも、同じことをしたほうがいいですよ。」

「私はそうはしませんよ。どちらかというとおぼれるほうがいいですよ。」

「どうしてですか。」

「船に乗ったときはいつも船酔いをするんです。」

この種の軽いユーモアはそんなにおもしろくありません。しかし、この種の軽いユーモアは確かに機能をもっています。この種の軽いユーモアは初対面の人達にお互いに打ち解けた気持ちを与えます。皆さんは、そのユーモアを理解しましたか。

最初の冗談は、その人が車をボートと交換することを意味する。そのジョークは面白さの点で誇張に頼っています。彼は雨が世界を洪水にするだろう、そして、将来自分は車よりも船が必要になるだろうと創造しています。

第2の冗談は洪水になった世界という考えを取り上げています。2番目の冗談を話した話し手は自分自身の誇張（冗談）を付け加えています。彼はどちらかというとおぼれをして気分が悪くなるよりも、水の中に死にたいと暗にっています。これらは両方ともばかげているものの例です。その考えは大変不合理なのでおかしくなります。二人とも洪水が実際に起きるだろうとは思っていないし、二番目の人も死にたいと思っていない。実際には本当に心配していないので、雨が世界を洪水にすると創造するときに、雨はおかしく思えるのです。

天候というのは中立的な話題です。中立性はお互いに相手の気持ちを傷つける心配をすることなしに話をするを許します。初対面の人は、相手の人の意見が違ふと口論が起りかねないので、政治や宗教については、おそらく冗談を言わないだろう。初対面の人同士のユーモアについてのすべての重要な点は、議論をするだけでなく打ち解けることなのです。

もちろん、あまりにも恐れなしに政治についてふざけて言っているか

もしれない状況であります。同じ政党の人々が候補者について討論しているとき、そのような1つの状況は選挙運動の間あります。

しかしながら、中立的な話題は初対面の人の間の冗談として常に安全です。天候は、誰もそれを支配しないので、初対面の人の間では一番人気のある話題です。アメリカの作家マーク＝トウェーンはそういう訳でかつてこんな冗談を言いました、「みんなが天候について話します。しかし誰も、天候について何もしません。」（茨城キリスト教大 63年）

【4】

物理的な意味でなく、社会的・心理的な意味において世界が縮小しているのは明らかである。私達の生活は地球上の他の人々の生活と深く関連している。アフリカであろうと、アジアであろうと、ヨーロッパあるいはアメリカであろうと、どんな混乱が起こっても、私達みんなに隣で起こった出来事よりもっと深く影響を与えるということがたびたびで、それゆえに、私達が新しい隣人となった異文化の人々を、より理解しようとするのは驚くべきことではないのである。

ことによるとすべての文化がもつ最も重要な唯一の仕事は、その国民に意味を表現しそれを分かち合わせる記号体系を創造し、維持することであるかもしれない。それゆえに異文化の言語を勉強するということは、その異文化のいろいろな事柄を処理する手段への入り口を手に入れることである。そのような勉強は明らかに貴重である。しかし、私達は、語彙や文法を把握することはせいぜい単なる第一歩にすぎないということを知り始めている。ある文化の言葉の記号を学ぶことだけではめったに十分とはいえない。つまり、人はその文化の身振りや表情や視覚に訴える記号もまた学ぶ必要がある。これでさえ十分というには程遠い。

自分の属している文化の内外を問わず誰にでも効果的にかかわるには、単に同じ言葉を使用できるだけでなく、根本的な基盤を同じにして出来事を解釈することができる能力が必要である。要するに、出来事を解釈する際に他人が使用するなじみのない世界と価値体系に入る必要がある。

他の文化と敏感に共有する能力が、将来の世の中では重要になるだろう。すでに、「同時通訳者」という職業は広く定着して高く評価されているものである。同時通訳の仕事は、確かにとおおいに重視されるのに値する。長い間、国際外交の分野ではそのような人々は必要であったが、今日の商業、工業、科学、芸術、法律、そして医学における国際化は、私達のなかのもっと多くの人々が自分たちの暮らし方というものを自分自信の文化以外の文化で生活し働くという形で発見するであろうことを暗示している。「通訳者」の仕事は当然異文化の違いを通訳する人にまで広がるということを示していると考えるのもまた妥当であるだろう。まもなく単に外国語に堪能な人ばかりでなく、ずっと深い異文化間の違いの橋渡しができる能力のある人が必要になるだろう。（龍谷大 63年）

【5】 - 1

≪『大草原の小さな家』から≫ 8月になると、昼間はとても暑くなるので、メアリーとローラは、朝早く、太陽が高く昇ばらないうちに、散歩するようになった。そのころだと、まだ空気にも爽やかさが残り、不快なほど暑くはなかった。けれども、毎日散歩する度に、何となく、2人一緒に歩くのもこれで終わりのような気がしてしまうのは、メアリーの旅立ちの日が近づいているせいだった。

メアリーは、本当に、この秋から大学に行くことになった。彼らはメアリーが行くのを楽しみにしていたが、いざ本当に彼女が行くということになると、そんなことがありうるとは思えなかった。大学に行くところを想像するのも難しかった。誰も、大学がどんなところか知らなかったし、見たことのある人も、1人もいなかったからだ。けれども、この春の父さんの稼ぎは、100ドル近くにもなったし、野菜もからす麦もとうもろこしも、すばらしい勢いで伸びているので、メアリーの大学入学が実現することになったのだ。

ある朝、散歩から帰ってみると、メアリーのスカートに、草が何本か刺さっているのに気がついた。ところが、ローラが引き抜こうとすると、

いくら引っ張っても抜けない。草の頭は、大麦ののぎに似ていた。種の先端は、針のように細くて固いとげになっていて、メアリーの服に縫い進んでいた。

「痛い！何かか噛みついた！」メアリーが悲鳴をあげた。メアリーの靴のちょうど上で、このおかしな草が一本、靴下を通して、ふくらはぎに食いこんでいくところだった。

父さんがお昼に帰ってくると、そのおかしな草を見てもらった。これは、せんだん草だよ、と父さんはいった。この草が馬や牛の口にはいると、口や舌を切って取り出さなければならなくなるという。羊の毛にもぐりこんで体の中にまで入りこみ、羊を殺してしまうこともよくあるそうだ。

「おまえたちは、どこで見つけたんだい？」父さんは尋ね、ローラが答えられないでいると、嬉しそうにいった。「気がつかなかったということは、たくさんはない、ということだ。所々に小さく固まってはえて、だんだん広がっていくんだ。どこを歩いたかは、正確にいえるか？」

それなら、ローラは話せた。父さんは、その草を根絶やしにしよう、といった。「緑の草を燃やせば、枯れてしまうという話を聞いたことがあるんだ。今のうちに燃やしてしまっ、できるだけ種を始末してしまおう。来年の春は、しっかり見張っていて、青いうちに焼き払うことだな。」

【5】 - 2

グウェンダは何も言わなかった。アースキンは彼女の方に振り向きこう言った；

「たぶん、君はヘレンのことについて知っていたほうがいい。彼女について誤解をしてほしくないんだ。私たちはインドに向かうボートで出会った。ヘレンは町から遠く離れた田舎に住む男…まあそんな感じの男と結婚するために出向くところだったんだ。彼女は彼を愛してはいなかった。彼はただの古い友達で親切でやさしいだけだった。彼女は不幸

せだった実家から離れたかったんだ。そして私たちは恋に落ちた…。しかし私はジャネットや子供たちを見捨てることはできなかった。ヘレンも私と同じように状況を納得していた。もし私の妻ジャネットだけならまだしも…息子たちがいたんだ。望みは全くなかった。そこで私たちは別れてお互いのことを忘れることにした。忘れる？いや、私は一秒たりとも忘れたことはなかった。私はヘレンのことをずっと考えていた…まあ、結局彼女はその結婚しようとしていた奴とは結婚しなかったんだ。最後の瞬間、やはり彼女はその結婚に向き合うことができなかったんだ。彼女はイギリスの実家に戻っていくのだが、その途中で他の男…君の父親だと思うんだが…と出会った。数ヵ月後彼女はディルマスから私に手紙をくれて自分がしたことを話してくれた。君の父親は妻を亡くしとても不幸せだったと彼女は言っていた。そして子供が一人いた。彼女は彼を幸せにできると考え、それが一番よいことだと思ったんだ。8ヵ月後私の父が亡くなって私はイギリスに戻ってきた。私たちはこの家に入居できるまでの間、数週間の休暇をとることにした。そこで私の妻はディルマスに行くことを提案したんだ。友達の何人かが素敵で静かな場所だと彼女に話したからだ。彼女はもちろんヘレンのことは知らなかった。君は私の衝動を想像できるかい？彼女にもう一度会いたい…彼女が結婚したという男がどんなやつかを見てみたい…。こうして私たちはディルマスにやってきたのだったが、それが間違いだった。再びヘレンに会うのは地獄だった…彼女は十分幸せそうで、私と二人だけで会うことを避けた…。私の妻は何かを疑っていたと思う…彼女はとても嫉妬深い女性なんだ…いつもそうだった。そして私はディルマスを去った…」

「8月17日ね」グウェンダは言った。

「その日だったかな？たぶん…正確には覚えていないが。」（独教大）

【6】

「大気汚染，特にオゾン層の破壊」 「汚染は国境を認めない問題である」とカナダ首相，ブライアン＝マルルーニーは最近ワシントンD. C. を訪問した際に言明しました。マルルーニーは特に酸性雨問題について言及していたのです。アメリカ合衆国の工場により汚染された大気が風で北へ運ばれカナダで空気中の水分と混ざって酸性雨になるのです。数エーカーのカナダの森林が酸性雨のために破壊されつつあるのです。

アメリカ合衆国とカナダは酸性雨問題について10年以上も話し合いを続けてきました。しかし二国は，親密な同盟国でありながら，いまだ最終的合意に達していません。レーガン政権は単に，工場や発電所に大気汚染を少なくするよう，より厳しい規制を課するような協定を「考慮する」ということを合意したのみです。

アメリカ合衆国とカナダの交渉をみても国と国が国際的汚染問題を解決することがいかに困難であるかがわかります。

世界の工業化が進むにつれ，国々が建設する工場の数が増え，天然資源を開発するようになるにつれ，大気や水の汚染問題も増大するでしょう。そこで専門家は，この問題に対しては国々が協力して取り組まなければならないというのです。ある分野では，国々が協力しています。例えば，オゾン層を守るために。オゾン層は，太陽からの有害な紫外線を防いでくれる地球を取りまく大気の一部です。1970年代，科学者はオゾン層が縮小してくれることに気づいたときから関心を強くしました。科学者はクロロフルオロカーボン（CFCs）—これはエアゾールスプレーを強力にしたり，冷蔵庫を冷やしたり，またコンピュータを清掃したりするのに使用される気体ですが—がいけないといっています。

アメリカ合衆国やカナダを含むいくつかの国がエアゾールスプレーにおけるCFCsの使用を禁止しましたが，一方まだ禁止していない国もあります。しかし，先月49カ国がオゾン層を侵す化学製品の使用をまず凍結し，次に減らすことに同意しました。国連の環境問題委員会のムスタファ＝K＝トルバは，「これこそ人類の一人一人を保護することを

提案した最初の、真に世界的な協力である」といっています。

環境保護団体はこの協定を賞賛しましたが、CFCsの使用をなお一層減らすことがオゾン層の保護には必要であるといっています。環境保護論者はこの協定が他の環境問題に関する国際的協定を結ぶ道を開くことになることを願っています。（日本大—文理 元年）

【7】

《現代の人間の生活における科学の重要性》 科学は現代の世界に生きている大多数の人々にとって、さまざまな理由から重要なものになっている。第一に、科学は多くの点で世界平和にとって重要である。一方では、科学者たちはたくさんの現代の戦争の武器を開発する手助けをしてきたが、他方では、研究によって平和を維持し、人々の生活を改善していくことにも手を貸してきた。今では、彼らを世界に十分なエネルギーを供給するという課題を私たちが理解する助けにもなっている。彼らは、例えば原子から取り出したエネルギーを利用することで、このエネルギー問題に対するいくつかの解決策を生み出し始めている。また、科学者たちは世界の資源の分析もしてきた。私たちは、現在私たちがもっている資源をお互いに分かち合うことを学んでいかなければならないのである。そして、これは科学が私たちに与えてくれた知識を用いることにより、手をつけることができるのである。

科学はまた、現代の科学技術の影響を受けているすべての人にとって重要である。私たちの生活をこれまでよりも楽にし、良くしてくれるものの多くは、科学技術の進歩の結果なのである。 この世界にあるほとんどのものが科学技術の成果として過去100年間に改良されるが、変えられてきた。人々の中には、これらの変革がはたしてすべて良いことであつたかを問う人もいるだろうが、それでも科学技術が私たちみんなに影響を与えていることはやはり真実である。そして、もし現在のような傾向が続くなら、科学技術は将来は現在以上にその影響を私たちに与えることになるだろう。技術によっては、例えば海水から塩を取り出す技

術のような、私たちが地球上で生活するのに欠くべからざるものもある。現代の世界と次の世紀におけるさまざまな発達を理解するためには、科学と科学技術の理解が必要になるであろう。

科学の研究によって私たちは自然界を理解する。科学者たちは地震のような事象を予報するようになってきていて、それによっていずれは何百人もの生命を助ける役に立つだろう。科学者はまた、種々さまざまな嵐のような多くの他の自然事象を研究しつつもいるし、人間を研究してもいる。つまり （科学者は）人間がどのようにして人間になるかではなく、人間を襲う病気のような事柄を理解しようとしてもいる。 また、生物としての人間の、いろいろな他の面を研究してもいる。科学者と科学専攻学生による自然界の研究は、自然界をいっそう分かりやすくするのに役立つだろう。また、多くの生命を救い、世界中の多くの人々のために生活を向上させるだろう。

科学の科目で勉強できそうなことのなかには、人間と人間生活をめぐるきわめておもしろい問題がある。たとえば、男女とは本質的に何なのか？。すべての人々を一層よく私たちが理解するのに、どんな情報が役立つだろうか？。人間がどうして発生したのか、人間らしく振舞うのがどうしてなのかを、どんな情報が説明できるか？。 以上のような疑問によって、生物学者は人類の起源と発達を理解するようになった。生物学者が研究する他の問題のなかには、病気に関するものもある。人間は、なぜ病気になるのか？。なぜ、病気にならない人もいるのか？。なぜ、百歳まで生きる人がいて、いっぽう55歳までしか生きられない人もいるのか？。以上の疑問は、どれも科学者の関心を呼び、その解答が出るときには、私たちの生活に確実に影響を与えるのである。（専修大－経済 元年）

【8】

言語の使用は、人間の卓越した思考能力と非常に密接に関係している。コミュニケーションの能力において、人間が学んだり考えたりする能力

における場合よりもさらに一層他の動物とは異なっている。確かにたいのホ乳動物は、空腹、怒り、恐怖、喜びあるいは苦痛などの感情を表わす音を出したり或いは動作をしたりする。これらは、ペットを飼ったことがある人なら誰でも証言できるように、同じ種に属する他の構成員によって認知され、コミュニケーションの役に立つ。しかしながら、人間は、抽象的な考えを伝えることができるところまで意思疎通を発達させたただ一つの種である。我々が用いるシンボルは普通言葉によるものなので、我々はspeech（言葉話すこと）とlanguage（身ぶりやインディアンののろしなどの言葉によらない意志伝達手段をも含む広義の言語）は同じものを意味すると考えがちであるが、他の方法でも同種のコミュニケーションが可能である。使われている記号が意志を伝えあう両方の側にとって同じ意味を持つことが必要であるだけなのである。しかし、そうしたコミュニケーションの発達は一般的ではない。人間のlanguageの大部分はspeechに基づいている。speechが子供によって作られる音声の変動の範囲内におさまる特定の音声パターンの形成と固定化から始まることを研究が示しているものの、speechの大部分は模倣によって学ばなければならないのである。人間以外に音声を模倣するホ乳動物がないのは注目すべき事実である。サルに話すことを教えようというすべての努力に伴う深刻な困難は、サルに音をまねさせることが不可能であるためであるようだ。

我々は言語の発展の初期の段階について全く何も知らない。言語の使用は大変古いと結論して差し支えない。しかし、文字の持たない言葉は痕跡を残さずに消えてしまった。エジプトや近東で文字が現れたときまでには、言語の進化は完全であった。記録を残している最古の言語は、現代の言語に劣らず文法が複雑であり、考えを伝えるのに十分である。人間の歴史の古い時代には、現在話されているよりも、ずっとより多くの言語が話されていた。昔の人間が住んでいた小さな地域の集団の各々は、おそらくそれ自信の言語を持っていた。

（駒沢大一文 元年）

【9】

≪『世代の断絶』とは何か≫ ここ10年ぐらいの間に、「世代の断絶」ということが一般に言われるようになった。我々は本や雑誌や新聞で、いつもその言葉にお目にかかっている。それは、突然、重大な問題となったのである。しかし、世代の断絶とは一体何を意味しているのだろうか。

それは、文字どおりのことを意味している。つまり、今や、若者と老人、子供と親、学生と教師を切り放している大きなへだたりのことをいっているのである。この「断絶」は単に年齢の相異、あるいは肉体的な相異なのではない。それは、実際は、知的心理的断絶なのである。すなわち、若者と老人の間の、今日における意志の疎通の欠如ということなのだ。

なぜ、そういうことになるのであろうか。それは、我々の現代の生活様式の特徴なのであろうか。そのように思われるのは、我々がそれを説明するためにこの新しい表現を生み出さなければならなかったからである。しかし、私が確信していることは、世界のどの時代においても、若者たちは老人とは違っていると常に感じてきたということなのだ。

しかしながら、今日の子供達は前の世紀の子供達とは違っています。今日の子供達は、前世紀の子供達よりも、より多くのことを知っており、より多くのことを経験し、あらゆる点でより早く成熟する。私は、私自信の大変狭い限られた子供時代を、今日の子供達が当然の権利として期待している自由や娯楽と比較するとき、小さな子供になったらなあと思わざるを得ません。私が小さかったとき、別の町とか市への列車による旅は、めったにない冒険だと考えられていました。私たちは少ししかおもちゃを持っていませんでした、テレビもラジオも持っていませんでした。私たちは私たちの創造力を使いました、そして私たちの遊びを作り出しました。私たちは常に本を読んでいました。一楽しみのために、退屈な学校の課題としてではなく。しかし、今日の子供達は乗用車やバスや飛行機に乗って常に移動しています。今日の子供達は自由に世界を旅

行し、それを何とも思っていない。新幹線での東京から博多までの旅というものは、普通の現代の子供にとっては決して冒険ではありません。

これが年上の人々が理解するのに苦労することです。実際のところ、親たちや祖父母たちのほうが、何か特別な旅やごちそうの予定があると、子供や孫たちよりも興奮しているようにしばしば見えます。

世代の断絶はマス＝コミによって作り出されました。毎日、子供達はテレビとか雑誌とか映画などであらゆる種類の娯楽や情報に接しています。今日の子供達は、私たちの周りの世界についてそんなにも多くのことを知っています。だから、ある意味では、彼らは彼らのいる時間の前について賢くなった。今日の子供達は、現代の生活の急速な変化や発展に当惑している老人に対する寛容の心を欠くことがある。老人たちは、知能的にも心理的にもそのような突然の変化の用意が出来ていない。肉体的にも、老人たちは順応出来ないし、現代生活の科学技術を覚えることが出来ない。道徳や環境や意思疎通における変化に素早く反応することが出来ない。

だから、若者達は老人たちを無視してかえりみません。若者達は年上の世代と共通なものは何もないと感じています。若者達は一時的な流行のなかに即座の娯楽と満足を探し求めています。しかし実は、世界の人口は着実に高齢化してきています。このことは既に大きな社会問題をふきだしています。だから、若者達は再び、老人に対する自分達の責任を意識しはじめています。老人を訪問し、買い物や料理を手伝い、老人のために掃除をし、自動車旅行に老人を連れてっている若者のグループがあります。そのことが若者と老人の断絶を埋める方向に向かう一歩をなすと私は信じています。（武蔵大－経済 元年）

【10】

《男女両性の役割の変化》 伝統的な男女の役割からはみ出るようなアメリカの多くの男女は、最初はそのような行動は難しいと思うものである。母親が職業につくと、自分の子供を他人の手に任せるために批判されるかもしれない。女性が職場で積極的に出世をねらうと出しゃばりだと言われるかもしれない。男性がろうばいや悲しみのために泣いたりすると、女々しい男、つまり女のような振舞をする男、と言われるかもしれない。赤ちゃんにミルクを与えたり、一緒に遊んだりすることを楽しむと、一部の人には男らしさに欠けると思われるかもしれない。かつては女性は仕事、学校、スポーツそのほかいろんな面で成功してはならないという圧力がきつくかけられたものであった。女の子は受けをよくするためには男の子に勝ちを譲らなければならないと教えられた。女性は成功すると女らしさを失うと言われた。女性らしさが消極的で無力であることを意味するようになっていたから、このことはしばしば真実であった。

しかし婦人運動によってもたらされた価値の変化によって、女性が多くの職業において成功することが受け入れられるようになった。現在では女性は自分で自分の人生の責任を取るように教えられている。女性は今では自分の欲することをはっきりと発言し、それを手に入れるために懸命に努力することができるのである。他人の権利を無視せずに自立する方法を教える職業訓練所があるほどである。今日では他人から与えられるのを消極的に待っているよりは、むしろ自己主張をすることに価値を見出す女性が多い。

婦人運動はまた、独身女性の地位の変化を引き起こした。以前は女性は自分の地位を主に自分の夫から得ていた。そのため夫のいない女性は不利な見方をされた。しかし今日女性は仕事や特技、興味から自分の地位を得ることができるのである。その結果、今日アメリカでは、独身女性はより多く社会に受け入れられているのである。これらさまざまな変化に直面して、自分がどんな立場にあるかを知ることが女性にとって難

しいとするなら、男性にとっても同じように難しいのである。 今日多くの男性は男性の役割と女性に対していかに対応するかについて困惑している。女性のためにドアを開けてやり、先を譲るといような昔からの社会の期待に従ってよいのだろうか。女性の上司を持つことはどんなことなのだろうか。 成功した女性の実業家とデートしたり、結婚したりするのどんなことだろう。

今日多くのアメリカ男性は、男性のあり方にはさまざまな方法があると言っている。彼らは暴力を使わない問題を解決し、女性を自分達と同等の人間と見なすことを望んでいる。かれらは優しく、人を愛し、繊細な男性である権利を主張している。これは従来は女性のみが持っていると思われた特質である。恐怖を感じる時には怖いと思い、喜びや悲しみを顔に表したり泣くことさえ構わないのだと、彼ら男性は言うのである。
(専修大一経済 62年)

【11】

19世紀が終わりに近づいたとき、国中の自転車の修理屋や馬車工場や機械の修理工場にいる独学の機械工は、動力を使って車を動かす新しい方法を忙しく試みていた。鉄道や蒸気船が長い旅が国を横断する貨物便を取り扱っていた、個人の日常の旅行の改善について考え始めた。

1901年のオールド・モービル号は人気があった初期の内燃機関の車であった。曲線の小ぎれいなダッシュ・ボードとかじ棒のように見える操縦装置をもっていた。20世紀の初めの間、電気自動車があった。トーマス・エジソンは、いやな匂いのする内燃機関を使っている自動車の中にはなく、そのような電気自動車の発展の中に自動車の将来があると確信していた。21世紀には彼が正しいということを証明するかもしれない。

1906年までに、自動車はその馬車という起源から自由になりつつあった、そして自分自身の形を発展させていた。フェンダーやステップやステアリング・ホイールや前後一組のライトが加えられた。もし私た

ちが知っているような自動車に誕生日があるとすれば、1908年10月が誕生日にあたるだろう。それはヘンリー・フォードが最初のT型フォードを紹介したときです。20馬力の4サイクルエンジンを持った5人乗りのオープンカーです。T型フォードは850ドルの値段がした。フォードの工場から後継車が大変急速に伸ばしてきたので、1909年の6月までには1日につき約100台の車が作られていた。15万台以上が1913年に製造された。その数の3倍が1915年に作られた。1924年までに価格は260ドルへと下がった。T型フォードが3年後に中止されたとき、1500万台以上が流れ作業の工場から出て来た。

フォードに追いつくために、他の会社が大量生産方式を取り入れ、フォード社の前例のない1日につき5ドルという賃金に対抗するために賃金を上げた。何百もの自動車工場が作られ、合併し、消えた。1927年にシボレーの販売高がフォードの販売高に追い付いた、そしてそれ以来、2つの会社は第1位の座を求めて競争して来た。安全と性能における改善が急速に何物にでもやって来た。1912年に導入された電気によるセルフスターターは、スターティング・クランクを回すための筋肉の必要をなくした。数年間の間はたいていの方には贅沢な付属品であった。そのスターターは他のどんなもの以上に女性をハンドルの後ろにおいた。

自動車文化はその不安な面を持っている。ハイウェイの死亡件数は、1960年の38137人から1972年には驚くほどの56600人と上昇しました。小売業は郊外のショッピングセンターや専門店街が移動したので、都市の繁華街は手入れ不足で荒廃した。何千エーカーもの畑や森が整地されて自動車を収容するためにコンクリートで舗装された。ドライブ・イン映画館や道路際のレストランやガソリンスタンドや多くの中古車売り場がハイウェイをけばけばしいお祭りに変えてしまった。スモッグのカーテンが、その原因はガソリンの排気ガスのせいだと非難されているのですが、多くの都市の地域を包みこんでいます。

汚染問題は多くの環境保護運動を活発にしました、そして1970年

代初めのガソリンの不足と価格上昇は国民に自然資源が無尽蔵ではないことを思い出させた。 より小さい車，車の乗り合い，スピードの低下，自転車の再発見，大量輸送復活の動きはアメリカ人はより輸送問題に対してより合理的な解決を示しました。しかしながら，アメリカ人の自動車好きは消える本当の危険はないようだった。（千葉商科大 63年）

【12】

自分達がイタリア系アメリカ人であることを知る前，私は11歳だった。その時まで，私は自分達が実在する国から来たことを知っていた，しかしそれが何と呼ばれていてどこにあるのか私は知らなかった。私は実際にヨーロッパの地図上でD a g oとかW o pという地名を探したことを覚えている。

当時，ペンシルバニア州の小さな町に住んでいたなら，イタリア人であることをみんなが隠そうとすることであった。A l l e n t o w nにいるほとんど誰もがペンシルバニア州のオランダ人であった，そして子供るとき，違っているために大変にいじめられた。時々私は，悪口を言った子供達とけんかをうった。

不幸なことに，イタリア人に対する偏見は私の同年齢の人々に限ってなかった。私のことを小声で「l i t t l e w o p」と呼ぶ少数の先生さえいた。3年生だったとき，私の民族特有の問題は1933年6月13日に頂点に達した。6月13日は聖アンソニーの日で家族の盛大な出来事であったので，私はその日を確信している。私の母の名前はアントイネッティで，アンソニーはミドルネームだから，毎年6月13日は家で大きなパーティを盛大に行ったものだ。

その行事を祝うために，私の母はピザを焼いたものだった。私の母はピザの生まれた場所であるナポリが出身地だった。今日まで，世界一でないにしても，私の母は国で素晴らしいピザを作った。その年，自分達は友達，身内を連れての特に素晴らしいパーティだった。

さて，当時アメリカではピザは事実上知られてなかった。もちろん，

今日ではピザは、アメリカ人のお気に入りの食べ物として、ハンバーカーやフライドチキンに迫っている。しかし、当時のイタリア人でない人は、だれもピザについて何も聞いたことさえなかった。

パーティの後の朝、私は学校で他の子供達に自慢し始めた。

「すごいぞ、タベうちでパーティをやったんだぜ！」

「あっ、そう？」と誰かがたずねた。「どんなパーティなんだい？」 「ピザパーティだよ。」と私は答えた。

「ピザパーティだって。それは一体どんな種類のバカな d a g o なんだ？」そして、彼らは皆笑い始めた。

「ちょっと待ってくれ。」と私は言った。「若いヤツはピザを食べるのが好きなんだろ。」彼らはかなり太っていて、私はあんなに危ない話題をしていたことを知っていた。「それがピザがそういうもんだったのか。トマトから作られたピザだって。」

私が先に出て行く間に、私はやめるべきであった、なぜならば彼らは今ヒステリーだからだ。彼らは私が何を話しているのか、少しも分かっていたいなかった。しかしイタリアの物ならろくでもないものに決まっていると思いついていたのである。その出来事全体についてのただ一つの良いことは、それが偶然学年の終わり近くに起きたのである。ピザの出来事は夏の間に忘れられてしまった。

私が6年生のとき、スチューデントパトロールの隊長の選挙があった。スチューデントパトロールの隊員は皆、銀バッチがついた白いベルトを絞めていたが、副隊長と隊長は、特別なバッチのついた特別なユニフォームを身につけていた。小中学校においてはスチューデントパトロールの隊長は高校でのクォーターバックと同じ価値を持っていた。私はユニフォームを着るという考えが、たいそう気に入って、隊長になろうと決心した。

投票が行われたとき、私は22対20の差で相手の生徒に負けた。私はひどく失望した。翌日、私は地元の映画館の土曜日の昼興行にいた。そこで私はトム・ミックスの映画を見たものだ。

私の前の列にクラスで一番でかい子供が座っていた。彼は振り向いて私を見た。「お前、バカなw o pだな。」と彼は言った。「お前、選挙で負けたんだろ。」

「うん、そうなんだけれど。」と私は言った。「なんで僕のことをバカだと言うんだよ。」「なんで。」彼は言った。「うちのクラスは38人しかいないじゃないか。でも、42人が投票したんだぜ。おまえみたいなd a g o sは勘定もできないのか?。」

相手は投票箱に不正票を投じたんだぜ。私は先生のところに行き、2回投票したやつがいるんだぞと先生に言った。

「もうそのことはそっとしておきましょう。」と先生は言った。彼女はそれを握り潰した。彼女はどんなスキャンダルも望まなかった。その出来事は私にとって深い影響があった。それは人生はいつも公平ではないという最初の教訓だった。(l c o c c aの自叙伝)

(産能短大－経営情報処理 2年)

【13】

何年か前、私が最初の職を探したとき、賢い助言者が強く薦めた。「バーバラ、熱意をもちなさい。熱意があれば、どんな量の経験よりもあなたの仕事は先に進みますよ。」

彼は何て正しかったのだろう。熱意のある人は退屈なドライブを冒険に変えることができる。余分な仕事を良い機会に変えることができる。見知らぬ人を友達に変えます。

「どんな偉大なことも熱意なしで達成されたことはない。」とラーフ・ワルド・エマソンは書きました。物事を続けるのが難しくなったときに、熱意というものはあなたがそこで踏みとどまるのを助けてくれるものなのです。熱意というものは、他のものが大声で「お前にはできないよ。」というときに、「私にはできる。」と心の中でささやく声であります。

1983年のノーベル医学生理学賞を勝ち取った遺伝学者であるバー

バラ・マクイントックの初期の仕事が、広く受け入れられるようになるのに何年も何年もかかった。しかし、彼女は自分の実験の手を緩めたりしなかった。仕事は彼女にとって大変深い喜びだったので、決してやめることを考えなかった。

私たちは皆、大きく目を見開いて熱心に物に驚く心を持って生まれた。幼児が鍵がガチャガチャなったり、カブト虫がチョコマカ走ったりするのに喜ぶのを見たことがある人は誰でも知っていることだ。

熱中している人々が何歳であっても若々しい雰囲気を持っているのはこの子供のようにものに驚く心なのである。90歳でチェリストのバブロ・カザロスはバッハを引くことによって一日が始まる。音楽が彼の指から流れるにつれて、彼の丸まった肩は真っすぐになり、そして喜びが彼の目の中に再びよみがえるのです。カザロスにとって、音楽は人生を終わりのない冒険にする万能薬であります。作家であり詩人であるサミュエル・エルソンがかつて書いたことは、「歳月は人の肌にしわをよらせます。しかし熱意をなくすことは魂にしわをよらせます。」

皆さんはどのように子供時代を熱意を再発見するのでしょうか。答えは、私が思うには、言葉そのものの中にあります。熱意という言葉はギリシャ語からきています。そして「内なる神を」意味しています。そして、内なる神とは変わらぬ愛情以外の何物でもない。つまり正しい自分に対する愛（自分を認めること）、そしてそこから、他人を愛するのです。

【補－1】

《家族形態の変遷》 西洋の家族はこの2世紀の間にずい分と変化した。社会学者はこれは伝統的な社会から近代社会への重要な変化のひとつだといっている。

19世紀以前、家族はふつう子供の結婚を取り決めた。若者はだれと結婚したいのか決めなかった。結婚後、多数の子供を作るのがふつうだった。この家族はおば、おじ、いとこ、祖父母や他の親戚からなる

もっと大きな家族の重要な一部分であった。

19世紀までには、若者はたいてい自分が結婚したい相手を選べるようになっていた。結婚によって二人が結ばれるのであって、二つの家族が一緒になるのではなかった。二人が結婚をする理由はお互い愛し合っているからだった。家族が結婚させたいと思ったからではなかった。

同時に、両親は子供の面倒を十分みななければならないということがわかり始めた。彼らは子供の健康に気を遣い、教育を身につけさせようとしなければならなかった。それ以前は、たいていの人々が学校に行かなかった。しかし今や、教育は良い人生を送るには欠かさないものであった。

両親は子供一人一人に満足のいく生活を送らせるには子供の数を少なくしなければならないと考えた。母親が子供と一緒にできる限り多くの時間を過ごすことが大切だと思った。以前は、家族みんなが家庭で一緒に働いた。1800年以後、家族を出て働く父親の数が増えた。母親は家庭にいて、家庭と子供をさらに支配するようになった。ほとんどの家庭が物を生産することはなかった。家庭は仕事を終えた父親にとって、また、母親や小さな子供たちにとっては一日中、安全な暖かい所であった。その他の親戚の人達はまだ重要な存在であったが、以前よりもばらばらになった。

今日、家族生活はアメリカではずっと速く変化している。結婚2組につき離婚はほぼ1組の割合である。10パーセント以上の家族が父親のいない母子家庭である。少なくとも半数の子供達がある期間片親としか一緒に生活しなくなるだろう。50パーセントの母親が家庭に出て仕事に就いている。

カナダでは離婚をして再婚する人が増えている。彼らは子供の数を少なくしている。このことは、今までふつうゆっくりとした変化をしてきた国に重大な影響を及ぼしている。

現在我々が知っているような家庭生活はまもなくアメリカではなくなるだろうと考える社会学者もいる。彼らは人がどんなふうに住んでいる

ようになるのかわからないのである。社会には家庭が必要であり、私達は常に家庭をもっていることだろうと考える社会学者もいる。

(京都産業大－理 63年, 専修大－経営 元年)

【補－2】

《エスキモー人の動物の彫り物のすばらしさ》 北シベリア, アラスカ, カナダ, グリーンランドにわたって, ほとんど一年中氷と雪でおおわれた気候の地域が広がっている。何も生えないし, 常に寒い。だが, エスキモー人たちはそんな所に住むことができる。彼らは少なくとも28000年にわたって北アメリカに住んでいる。そして彼らは自らを「イヌイト」と呼んでいる。この語は「人間」を意味し, 数千年にわたって彼らは自分たちが世界で唯一の人間だと考えていた。

そこでは生きることがおそらく世界で最も困難なことだろう。人々はただ必要欠くべからざる物だけしか持っていない。だが, 彼らは美しい技芸を発達させてきた。なぜならばかれらにとって技芸は必要欠くべからざるものであるからである。

エスキモーの芸術家は手元にある海の動物から1片のきばを取り出す。それをゆっくりと回し, 調べ, 手でさわってみる。彫り始めると彼は夢想し始める。彼はその動物の隠された姿がきばの中にあることを知っている。芸術家が夢想し, 彫刻するにつれて, その動物がゆっくりと姿を現す。それはアザラシかも知れないし, クジラかも知れない。魚かも知れないし, 鳥かも知れない。エスキモー人は自然の近くに生活をしているから, 動物のいろいろな形を理解している。彼は陸地や, そこに住む人間や動物に親しみを感じている。彼は動物たちがどのように動き, じっとしている時にはどのように見えるかを知っている。彼は生きている動物の感情を正確にとらえている動物(の姿)をきばや骨で作ることができる。

どうしてエスキモー人たちは何のためにもならない小さな動物を作るのだろうか。この小さな動物は彼らの社会の中で特別な意味を持っている

るのだろうか。社会学者たちはこれらの問いに答えることはできない。エスキモー人たちはこれらの問いに答えない。それで社会学者たちは推測するだけである。

その小さな動物は生きた動物をただ写しただけのものではない。その彫り物の動物には生きた動物の性質がいくらかある。動物を彫ることの方が、彫り上げて所有することよりも重要である。芸術家がきばで動物を彫る時、彼は動物であることがどのような感じがするのかをよく知っている。

小さな動物の彫り物を指でさわったり、手で触れたりすることはエスキモー人にとっては大切なことである。手でさわると彫り物がなめらかになり、なめらかになると彫り物は一層よくなる。彫り物の動物の多くは直立しない。それらはひっくり返ってころげ回る。そんなことは重要なことではない。人々は彫り物を手に持って指でさわってみるべきであって、見るだけのものではすまずべきでない。

エスキモーの動物や鳥や人間の小さな彫り物は北部カナダやアラスカを訪れる人々の間では大変人気がある。エスキモーの人々が住んでいる地域を訪れることのできない人々は博物館で彼らの芸術作品を見ることができる。我々のたいていの者はクジラやアザラシを見ることはないが、きばや骨でできた動物の美しい形と色を見ると、生きている本当の動物がどんなに美しいものであるかがわかる。（武蔵工業大 62年）

【補-3】 言葉と言語

人間と動物の違いの一つに、人間には言語があるが他の動物にはないことがある。言語は人間の言葉であり、文語か口語のどちらかである。世界では約3,000の言語があるが、その言語の中には数百人によってのみ話されているものもある。

すべての言語には、音のシステム、単語、語順や文法がある。語順は英語では他の言語よりも重要となる。中国語やアフリカの言語の多くでは、音のシステムがとても重要である。

言語は常に変化している。しかし人々の生活が何年もほとんど変化を伴わずに継続してゆく社会においては言語もほとんど変化しない。最も初期のものとして知られている言語は複雑な文法を所有していたが、ボキャブラリーは少なく、限られたものであった。何世紀にも渡って文法は変化し、ボキャブラリーが増えていった。例えば、16、17世紀にアメリカにやってきたイギリス人やスペイン人は、彼らが発見した新しい植物や動物のすべてに名前をつけた。こうして、何百もの新しい単語が、英語やスペイン語のボキャブラリーに加えられていったのであった。

今日では人々の生活は急速に変化しており、言語の変化もまた早いのである。

主要な言語族は世界にいくつか存在する。科学者の中には9つの主要言語族があるという人もいれば、分け方がことなる科学者もいる。各言語族における言語たちにはつながりがある。科学者はそれらの言語たちは同じ祖語から来たものと考えている。世界の約3パーセントの人々が、これら主要言語族にない言語を話す。

我々は耳で聞き、それをまねることによって自分の言語を学ぶ。我々は勉強したり考えることなしにこれを行っている。しかし外国語を学ぶにはたくさんの勉強と練習が必要となる。

(明海大－歯 3年、明治薬科大 5年)

【補－4】砂漠

砂漠は美しい静寂の地です。日は昇り、風が吹き、その時間と空間はまるで終わりのないように見えます。柔らかなものは何もありません。砂や石は硬く、植物の多くでさえもが葉の代わりに硬い針を持っています。

世界の砂漠のサイズや位置は常に変化しています。何百万年にも渡って気候が変化し、そして山が盛り上がり、新しい乾燥地帯と湿地帯が作られます。しかし過去100年以内においては、砂漠が脅威のスピードで広がっています。一部自然変化が原因ですが、最大の砂漠メーカーは人

間です。

19世紀、オーストラリアのイギリス植民地に住む人の中にはイギリスからウサギを持ってきた人がいました。今日オーストラリアでは何百万匹ものうさぎが手当たり次第に植物を食べてしまっています。オーストラリアの中心部を覆う大砂漠は広がっています。

南西アメリカの土地は肥えています。しかし大きな畑で作物を育てるには多量の水が必要ですが、降水量は少ないのです。地下水の水位は毎年下がっています。

チグリス・ユーフラテスの流域で初の農業が始まりましたが、今日その土地は砂漠となっています。乾燥地帯では、人々は痩せて乾いた土地に作物を植えます。1年か2年の渇水年があると植物は死に、その土地は砂漠となります。ヤギ、羊や家畜が目映るすべての植物を食べてしまっています。

発展途上国では、90パーセントの人々が調理や暖房に木を使用します。薪を得るのに木を伐採します。しかし木はその下の土地を冷やし、小さな植物に日光が当たるのを避けています。葉が落ちれば、肥料となり土地が肥えていきます。しかし木がなくなると小さな植物は死に、砂以外は何もなくなってしまいます。しかし人々は生きていくために薪や動物、作物が必ず必要です。

人間は砂漠にしてしまうことも可能ですが、それが広がるのを防ぐこともできます。アルジェリアでは砂漠の砂をくい止めるためにサハラ砂漠の端を横切り、木の緑の壁を植えています。モーリタニアでも首都のノアクショット周辺に同様の壁を植えています。イランでは砂地上を薄い石油の膜で覆い、木を植えています。油はその土地の水や小さな木を保ち、オートバイに乗った人々が羊やヤギを近づけないようにします。USSRやインドでは砂漠地域に水を引いてくるために長い運河を建設しています。

しかし、将来おそらく砂漠となるであろう土地はオーストラリアとUSSRとアメリカを一緒にした大きさと等しいものとなるでしょう。人々

は世界の砂漠の広がりを止め、生活にかかせない土地を守ることができ
るでしょうか？誰も答えを知りません。

(清泉女子大一文 62年、多摩美術大-日本油画 62年)

【補-5】 温室効果

科学者たちは地球に何かとても大変なことが起きていると言う。1999
年代には地球は温暖化が始まるだろう。次の世紀間には気候に主要な変
化があるだろう。沿岸水の温度は高くなるだろう。これは農業に深刻な
影響を与える。北部地域では2000年までに栽培期が10日長くなるだろ
う。しかしながら、より暖かい地域では乾燥しすぎてしまう。水の量は
50パーセント減る可能性がある。これは農作物の大幅な削減を引き起こ
す。

2040年までには世界の気温は2度上昇し得る。しかし、この上昇は北
極や南極地方では3倍となるかもしれない。これは北極・南極を覆う氷
床を溶かし、1メートルから2メートルの海水面の上昇を引き起こす。多
くの沿岸都市が浸水するだろう。

なぜこのようなことが起きているのか？空気中の二酸化炭素（CO₂）
が多すぎるからである。石油、ガスや石炭を燃やすと大量の二酸化炭素
が作られる。我々は50億トンもの二酸化炭素を大気中に送り込んでいる
のである。この量は50年で2倍となるだろう。この二酸化炭素は地球大
気圏に太陽の光を進入させ、地球を暖める。しかし、二酸化炭素はその
熱をそれほど大気圏から出させず、熱は宇宙空間に行かない。まるで毛
布のような役割である。毛布を通過して太陽から熱が伝わり地球を暖め
る。その熱はそこに留まり、再び毛布を通過して逃げることはできない。

科学者たちはこれを温室効果と呼んでいる。植物を育てるために建て
られるあの温室だ。ガラスと透明なビニールでできている。

これら科学者たちは、我々は今計画を立て始めなければいけないと言
う。研究を行う必要があり、そうすることで何が起こるかを予測できる
だろう。我々は石炭、石油やガスを節約しなければならない。

しかしこれに同意しない科学者もいる。彼らは心配する理由は全くないと言う。この温室効果はそれほど深刻にはならないだろうと考える。これら科学者たちはまた、世界気候の原因はとても複雑であるとも言う。この温室効果は一つの原因にすぎない。他のガスや空気中の埃、雲における変化もまた地球の気候にとって重要である。

差し当たり、すべての科学者たちは、我々は大気圏中の二酸化炭素の量を測り、その影響を観察し続けなければならないということで意見が一致している。科学者たちはこの研究を促進していかなければならず、そうすることで世界は温室効果が本当に起こるときに備えなければならない。

【補-6】泣くこと

メアリーはある大きな会社で家を販売しています。ある男女のカップルが15万ドルである家を購入することに合意しました。最終の契約書にサインをするために、今日の午後彼らが事務所にやってくることになっています。そこで彼女の上司が彼のオフィスに彼女を呼びました。その購入者は心変わりしたということです。上司はとても憤慨し、メアリーに失礼なことを言います。彼女は自分のせいではないことはわかっていますが、彼は何も聞いてくれません。また彼女は多くのお金を損失するだろうということもわかっています。彼女は新しい車を購入するつもりでした。彼女は泣き出してしまいます。

ポールは妻と子供たちと裏庭に座っています。彼らはちょうど夕食を食べ終わったところで、夕食後の会話を楽しんでいます。電話がなります。別の市に住むポールの母からでした。ポールの父がたった今心臓発作で亡くなったということでした。ポールは彼の母にできるだけ早く行くということを伝えながら泣き始めました。

アトランティック市でミスアメリカ大会が近々終了します。最終選考に残ったのは10名。審査員はミスアラバマをアメリカで最も美しい女性として選びました。名前が発表されたとき、彼女は前に出ました。去っ

てゆくミスアメリカが彼女の頭にクラウンをのせると、新しいミスアメリカは泣き始めました。

人々は気を悪くする時泣きます。たとえば家族の死といった何かとても悲しい起こった時にも泣きます。身近な友達が家族の死に直面した時、悲しくて泣きます。人々はとても悲しかったり、とても憤慨する時に泣きます。ある問題に関してどうすることもできず、絶望的だとわかると泣きます。

人々はまたとても気分がよい時にも泣きます。何かについてとても心配していたけれどもすべてが大丈夫だとわかった時にも泣きます。何か素晴らしいことが起きる時も泣きます。

人々は泣くことについてどう感じるのでしょうか？ポールは気持ちを外に出した後気が楽になりました。ミスアメリカはとても興奮していたので自分が泣いていることにほとんど気がついていませんでした。メアリーは上司のオフィスで泣いたため、困惑し、自分自身にとっても怒りを感じていました。

最近までアメリカでは、男性は泣かないものだとされてきました。泣くことは弱いことであり、女性にとってのものだとされてきました。男性は強くあるべきだと考えられていました。しかし物事は変化しています。男性は気持ちを外に出しても大丈夫なのだという事に気づき始めています。女性はただ泣く代わりに、問題に対して何かできることがある時もあるのだということを学んでいます。公の場や怯えた子供の前などでは泣かないようにします。

化学者はなぜ人は泣くのかを研究しています。彼らは、人間の体は2種類の涙を作り出すと言います。一つは目に埃が入ったときに目をきれいにするものです。しかし人々が感情が原因で泣くとき、これらの涙は中に有毒な物質を持っています。体は強い感情によって作られたこれらの物質を排除しています。

アメリカでは男性は女性よりも心臓疾患を患う頻度が高いです。医者は、心臓疾患やその他の病気の中には、現代社会で生活したり働いたり

するプレッシャーが関連するものもあります。恐らく男性は十分に泣かないことが原因で、より多くがこれらの病気で苦しむこととなるのです。そして、家庭の外で働く女性が多くなれば多くなるほど、彼女たちもまたより多くのプレッシャーに苦しむことになるでしょう。というわけで、皆がもっと泣く必要があるのです。

(日本ルーテル神大－推薦 62年)

【補－7】 原始人

地球上での人間の生活はいつ始まったか？人間は氷河期、その他気候の変化をどのように生き抜いてきたのか？大きな動物がすべて死んだときも、なぜ人間は生き残ったのか？

これらの質問に対する正確な答えを知っている者は誰もいないが、考古学者らは答えを見出そうとしている。彼らは何千年も前に生きていた人々が住んでいた村の古跡を調査している。また墓や洞窟で見つかる骨、頭蓋骨、道具、針や他の物を調べている。彼らはそれらの重さや大きさを測り、記述したり、写真を撮る。それらが何年前のものかを見出すために実験を行う。少しずつ、世界を通じて情報が集められ、我々は原始人についてより多くのことを知る。

1964年、MaryとLouis Leakey夫妻が東アフリカで200万年前の頭蓋骨を発見した。彼らは何年もの間原始人の遺骨を調査し、研究を続けていた。1972年には、彼らの息子のRichardがそれより50万年古い頭蓋骨を発見した。その頭蓋骨は人間の頭蓋骨に似ており、その人間は現代人のようであった。数年後、Richard Leakeyは300万または350万年前の別の頭蓋骨を発見した。しかし、それが人間のものであったか、もしくはほとんど人間のような動物のものであったかを断定するのは難しい。

これらの時代の厳しい生活を人間がどう生き抜いたのかを想像するのは難しい。人間は体を暖かく保つための体毛が非常に少ない。動物のほうが寒い気候に対してより機能を備えている。人間の肌は非常に薄く、簡単に傷つけられてしまう。人間の歯や爪は動物の歯や足の爪のように

強くない。

しかし人間には動物に優る利点はいくつかある。人間は立つことを学んだ。全部の手の指が分かれている。親指が動くので手で物をつかむことができ、道具を使うことができる。

原始人は動物ができないことをすることを学んだ。彼らは骨や象牙を削って針、釣り針や道具を作った。どうしてか誰かが火を発見した。彼らは熱を得るために火をおこし、食べるものを調理することを学んだ。また、火は危険な動物を驚かして追い払った。また骨や木製の道具を硬くするために火を使った。

原始人はまた絵で洞窟や石を飾った。何千年も前、生活がとても困難であったときでもアートは人間にとって不可欠なものであった。

さらに重要なことに、人間の脳は記憶することができる。動物も記憶することができるが、人間ほど多くは記憶できない。人間は何かすることを学び、それを記憶し、その知識をもっと多くのことを学ぶために用いる。こうして子供たちに教えることができる。このようにして人間の知識は増えていく。

最初の人類はおそらく小さな集団で暮らしており、動物を追い求めあちこち移動していた。彼らは狩猟採集民であった。

農業をどのように学んだのか？答えは同じく、誰も知らない。恐らく、人間が野生の植物を採集する民から農業をする民に変化するのには何千年もかかったであろう。狩猟も時々おこなっていたが、農業はより重要であった。これは人間の生活における偉大な変化であり、人間の歴史の中で最も重要な変化の一つであると言えるだろう。

人々が農民として一つの場所に滞在したとき、彼らは動物を育て、家を建てることができるようになった。最終的に、その集団はそれに従って生活していくためのルールを作った。これは集団が社会となった時である。何千年後、人々は文字体系を生み出した。これまでに発見された一番古い文字は5,000年前のものである。人々はその前にも文字を書いたのだろうか？恐らく考古学者が洞窟のどこかでもっと古い文字を見つけ

ることだろう。

人々が書くことを始めたとき歴史が始まった。人々が最初に道具を作り、火をおこした時代から書くことができるようになるまでには何十万年が費やされた。次の何十万年後にはどんな変化がもたらされるだろう？

【補-8】 ビーバー

ビーバーはアメリカやカナダの森林に住んでいる。家やダムを作ったり、修理するために木を切ることに時間を費やす。よく働く動物であるが、時には水で遊ぶことに時間を費やすこともある。

そんなことあり得ないように思われるが、この動物は歴史上とても重要であった。オランダ人、フランス人、イギリス人の間で起きた150年の戦いの原因であった。フレンチ・インディアン戦争の主な理由であった。イギリス人がフランス人とインディアンに対抗して戦ったこの戦争はイロコイ連邦のインディアン政府を破壊した。インディアンたちは北東アメリカやカナダの一部に住んでいた。またビーバーは、人々が二国の横切って伸びる水路を発見した理由の一つにもなった。

ビーバーはほとんどの時間を水中で過ごし、そのため常に水路の近くに家を作る。家は木片、石、植物や泥（土と水を混ぜたもの）から作られる。入り口は水中にあるトンネルを通してしか達することができないためとても安全である。水上の開口は、小さな空気穴だけである。

ビーバーはまた、家の近くに池を設けるためにダムも作る。流れを横切ってダムを作るために、棒や泥や石、植物を使う。およそ深さ1メートルで4ヘクタールをカバーできる池を作る。

誰も家やダムの作り方をビーバーに教えるわけではない。やり方は持って生まれる知識である。ビーバーには木を切るための大きくて鋭い前歯が二本ある。これらの歯の成長は止まることはない。そしてまるで手のように前足を使うことができる。後ろ足は泳ぐために20センチメートルに達するまで広がる。ビーバーが泳ぐときは、平らな尻尾を操って

進む。尻尾はまた他のビーバーに危険を知らせるのにも使用することができる。大きな音を出すために尻尾で水を叩く。頭から尻尾の先までの長さはおよそ1メートルである。

ビーバーは地上ではとてもゆっくり移動するが、優れたスイマーである。哺乳類であるが、15分間水中に潜ることができ、地上の空気を得るのに水面に出てこないでほぼ1キロメートル泳ぐことができる。

18世紀、人間はビーバーをわなで捕らえ、ヨーロッパや北アメリカで毛皮の販売始めた。ビーバーの帽子はとても人気となり、毛皮は他の衣服にも使われた。人間はビーバーをわなで捕らえ、新しい土地を探索するために歩き、大西洋から太平洋へ小さなボートで移動した。ビーバーの毛皮はブラウンゴールドと呼ばれ、北アメリカの商業においてとても重要であった。そして頻繁に金銭の代わりに用いられた。オランダ、フランスやイギリスの植民地では、わなを仕掛ける最良のエリアをめぐって戦った。

18世紀には何百ものビーバーが生息していた。1900年までにはそのほとんどが消滅してしまった。人間はビーバーを乱獲し、かつて住んでいたところには都市や農場があった。そこで、両カナダとアメリカの政府はビーバーを保護するための法律を制定した。しかし、自然界でのビーバーの天敵はほとんど残っておらず、今や人間は敵でもなくなり、母親は一年に4、5匹の赤ちゃんを産むことから、ビーバーの数は倍増し始めた。

ナチュラリストは、中にはビーバーの数が増えすぎたエリアもあると言う。ビーバーはまだ若い森林や果物の木を倒してしまう。ダムは土地を浸水させ、深刻な被害を引き起こす。両国政府は現在わなを仕掛けることをある程度許可しているが、これがこの問題を解決するのかどうかは誰にもわからない。ビーバーの数を制御するには恐らくまたビーバーハットが人気とならなくてはいけないだろう。（江戸川女子大 3年）

【補－9】車を所有する

人は車を所有すべきですか？これは大事な質問です。大きな都市部では、車を所有する理由がいくつかあります。まず最初に、車は人が自由に移動できるようにします。車があればバスの時刻表をチェックする必要も、電車に乗るために待つ必要もありません。

第二に、車は移動がとても快適な手段です。天気が悪くても、ドライバーは暖かいところにいられて濡れません。一方バスや電車に乗る人たちは、哀れにも雨の中に立っていなければいけなくなるかもしれません。最後に、通常ドライバーは夜でも車の中で安全です。一方、車を所有するのに反対のよい理由もたくさんあります。最初に、車はとても高価となり得ることです。ガソリンの値段は上昇し続けており、車の保険料は一年で300ドル、400ドルかかります。第二に、車を所有することは心配を引き起こしストレスとなり得ます。通勤ラッシュ時の渋滞の中を運転したり、駐車スペースを探してあちこち運転して周るのは非常に疲れます。最後に、全員が汚染やエネルギー問題について考えなくてははいけません。大気汚染や騒音公害は、車を運転する人が増えれば増えるほど増加します。スタンドでは2、3ガロンのガソリンを購入するためにドライバーが長い列に並んで待たなければいけないときもあります。

都心部に住む人は車を所有すべきでしょうか？一方では、移動の自由、快適さと安全があります。しかしもう一方では、高価であること、心配、生活の質に対する懸念があります。大きな都市に住む多くの人々にとって、車を所有することよりも所有することに反対する理由がより多くあります。（鶴見大 60年）